

平成25年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
「地域医療における薬剤師の積極的な関与の方策に関する研究」 分担研究報告書

分担研究報告書

薬剤師が提供する在宅医療サービスのアウトカム検証 ～全国調査の結果から～

研究分担者 恩田 光子 大阪薬科大学・臨床実践薬学研究室 准教授
研究協力者 七海 陽子 アドバンスファーマリサーチオフィス
研究代表者 今井 博久 国立保健医療科学院 統括研究官

研究要旨：「薬剤師の本質的な役割」を適切な薬物療法の管理を実行することとし、「積極的な関与」を薬剤師が地域において他職種との連携強化(特に患者情報の共有化)とそれに基づいた薬物治療に係る問題解決の実践を意味するものと定義した。そして、実際に薬剤師が地域医療に積極的に関与することにより、在宅医療サービス(今回は訪問業務に着目した)によって得られるアウトカム(結果)はより良いものになるという仮説の検証を試みた。その結果、薬剤師が在宅医療サービスへ積極的に関与することにより薬物治療アウトカムは向上することが実証された。

A. 研究目的

平成25年度の研究目的及び活動内容

本研究の目的は、地域において薬剤師が積極的に在宅医療へ関与することによって患者アウトカムが向上することを明らかにすることである。つまり、薬局薬剤師の業務範囲の専門性を活かした役割の拡大などによって地域の患者のアウトカムが向上することを証明する科学的なエビデンスを獲得することである。平成25年度は、パイロットスタディに基づき調査票記入の負担度やアウトカム指標に検討を加え、調査方法及び内容を推敲した上で実施した全国調査の結果を精査した。

B. 研究方法

1) 調査対象

在宅医療サービス(今回は訪問業務に着目したため、以後「訪問業務」とする)を実施している全国の日本薬剤師会会員薬局

2) 調査方法

調査プロセスを2段階に分けた。まず、第1段階で訪問業務の実施有無を問うスクリーニング調査を実施した。その後第2段階で「実施あり」との回答を得た薬局へ自記式調査票を郵送し、当該薬局において訪問業務を実施している薬剤師に対し、訪問患者5名を上限に、業務内容等に関する回答を依頼した。調査票は郵送により配付し、回答済み調査票は返信用封筒にて返信を依頼

した。

3) 調査期間：2013年1月15日(水)～2月13日(水)

4) 調査項目(別添資料)

「薬局属性(問1～8)」、「患者背景(問9～16)」、「訪問頻度と実働時間(問17～18)」、「各業務の実施頻度(問19)」、「処方薬(問20～25)」、「アドヒアランス(問26～29)」、「地域連携(問30～36)」、「ケアカンファレンス及び退院時共同指導(問37～39)」、「在宅医療・介護推進プロジェクト(問40)」、「地域における慢性疾患患者の薬物治療(問41)」

5) 分析方針

訪問業務によるアウトカム指標として、服薬アドヒアランスの変化、残薬量の変化、有害事象(Adverse Drug Events: 以下ADE)等の発見・対処・改善の有無、処方内容の変更(特に、禁忌・重複・相互作用、漫然投与、アドヒアランス不良等に起因する問題の是正を意図したもの)を設定し、全体の傾向を「マス(集団)」として捉えると同時に、個々の事例の蓄積も目指した。

C. 研究結果

1) 回収状況

全国1890薬局、5447名の患者データを回収した(回収率：56.9%)。

		スクリーニング調査				本調査			
		対象* 薬局数	回収数	回収率 (%)	訪問業務 実施 薬局数	実施率 (%)	対象 薬局数	回収数	回収率 (%)
TOTAL		41,271	10,739	26.0	3,321	30.9	3,321	1,890	56.9
エリア別	北海道・東北	4,513	904	20.0	179	19.8	179	107	59.8
	関東	11,333	2,956	26.1	998	33.8	998	482	48.3
	中部	8,431	1,611	19.1	489	30.4	489	326	66.7
	近畿	6,834	3,091	45.2	1,126	36.4	1,126	651	57.8
	中四国	4,671	791	16.9	181	22.9	181	113	62.4
	九州・沖縄	5,489	1,386	25.3	348	25.1	348	211	60.6

※ 回収率：当該調査の回収数 ÷ 当該調査の対象薬局数 / 実施率：訪問業務実施薬局数 ÷ スクリーニング調査の回収数

*平成23年9月に全国の厚生局へ行政文書開示請求を行い、届出受理医療機関名簿(薬局)から訪問業務に係る届出薬局数をカウントした数値

⇒回収率は56.9%(4319件を母数にした場合43.8%)となり、訪問業務を行っている薬局の全体像をほぼ反映しているといえる

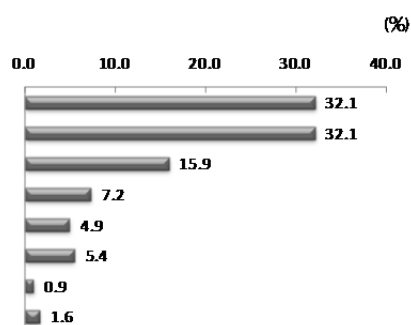
*参考

中医協資料として、9月4日に公表された値によると、在宅患者調剤加算を算定している薬局数は4,319(平成24年7月1日時点)⇒したがって、今回調査対象となった3,321件は全国の約76.9%をカバー

2) 薬局属性

Q2 勤務薬剤師数(中央値：2人)

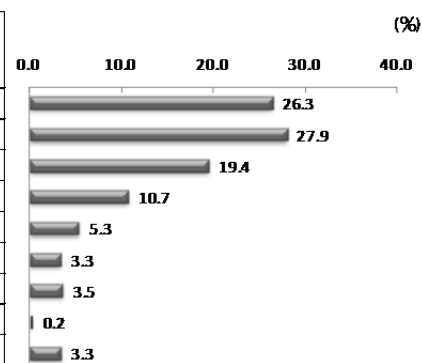
A：フルタイム勤務		n	%
1人	606	32.1	
2人	606	32.1	
3人	300	15.9	
4人	137	7.2	
5人	92	4.9	
6~10人	102	5.4	
11人以上	17	0.9	
無回答	30	1.6	
合計	1,890	100.0	



平均： 2.5人

勤務薬剤師数(中央値：1人)

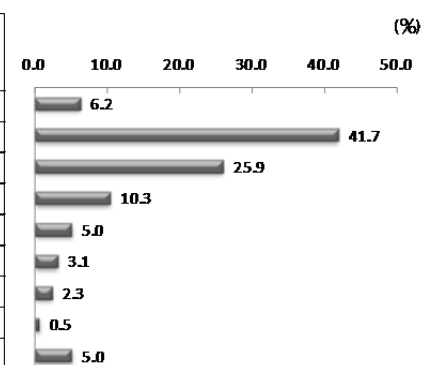
B：パートタイム勤務		n	%
0人	498	26.3	
1人	528	27.9	
2人	367	19.4	
3人	202	10.7	
4人	100	5.3	
5人	62	3.3	
6~10人	66	3.5	
11人以上	4	0.2	
無回答	63	3.3	
合計	1,890	100.0	



平均： 1.7人

Q3 「在宅訪問実施」を届出ている薬剤師数(中央値：1人)

A：フルタイム勤務		n	%
0人	117	6.2	
1人	789	41.7	
2人	489	25.9	
3人	194	10.3	
4人	94	5.0	
5人	58	3.1	
6~10人	44	2.3	
11人以上	10	0.5	
無回答	95	5.0	
合計	1,890	100.0	

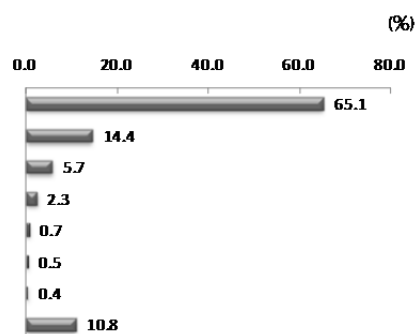


平均： 1.9人

「在宅訪問実施」を届出ている薬剤師数（中央値：0人）

B：パートタイム勤務		n	%
0人		1,231	65.1
1人		273	14.4
2人		108	5.7
3人		44	2.3
4人		14	0.7
5人		9	0.5
6人以上		7	0.4
無回答		204	10.8
合計		1,890	100.0

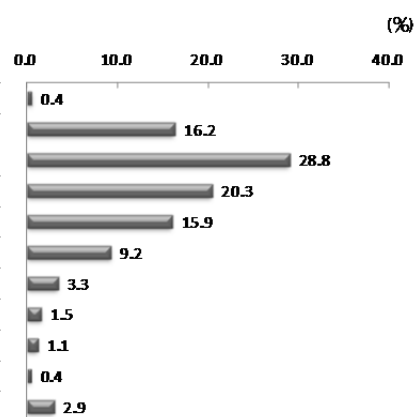
平均： 0.5人



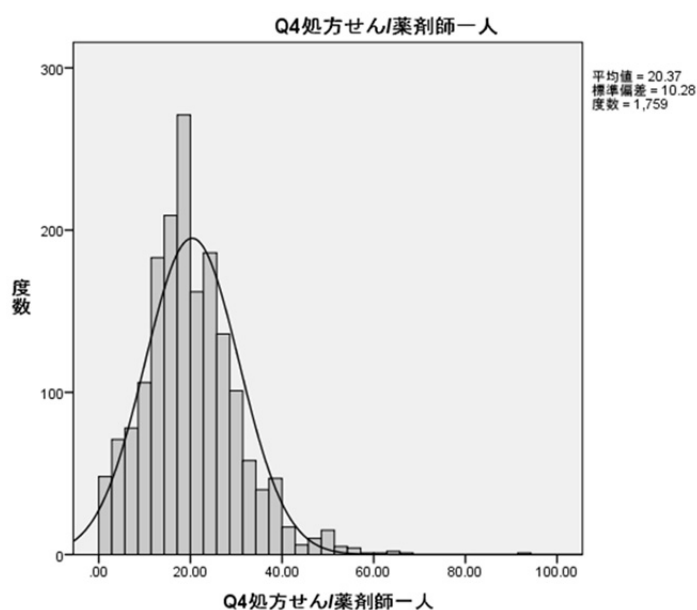
Q4 平均処方せん応需枚数/日（中央値：55枚）

回答されている直近1週間における1日当たりの平均処方せん枚数を教えてください。	n	%
0枚	8	0.4
1~25枚	306	16.2
26~50枚	545	28.8
51~75枚	384	20.3
76~100枚	300	15.9
101~150枚	173	9.2
151~200枚	63	3.3
201~300枚	28	1.5
301~500枚	21	1.1
501枚以上	7	0.4
無回答	55	2.9
合計	1,890	100.0

平均： 72.0枚



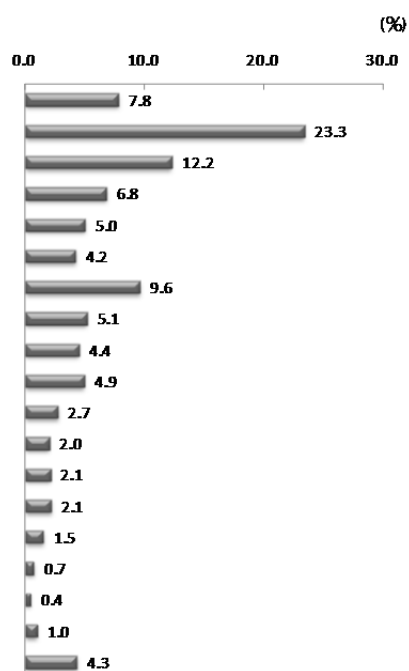
処方せん応需枚数/薬剤師



Q5 訪問患者数（中央値：3人）

A：訪問患者数（月平均）		n	%
0人		147	7.8
1人		441	23.3
2人		231	12.2
3人		128	6.8
4人		94	5.0
5人		79	4.2
6~10人		181	9.6
11~15人		97	5.1
16~20人		84	4.4
21~30人		93	4.9
31~40人		51	2.7
41~50人		37	2.0
51~75人		39	2.1
76~100人		40	2.1
101~200人		28	1.5
201~500人		13	0.7
501~1000人		8	0.4
1001人以上		18	1.0
無回答		81	4.3
合計		1,890	100.0

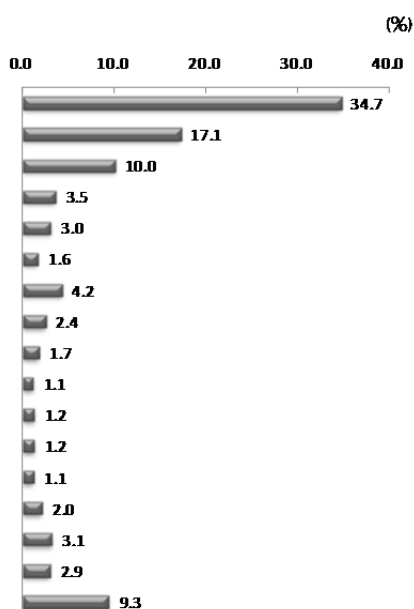
平均： 37.1人



医療保険請求数／月（中央値：1件）

B：医療保険請求数（月平均）		n	%
0件		655	34.7
1件		324	17.1
2件		189	10.0
3件		66	3.5
4件		56	3.0
5件		30	1.6
6~10件		79	4.2
11~20件		46	2.4
21~30件		32	1.7
31~40件		20	1.1
41~50件		22	1.2
51~100件		22	1.2
101~200件		21	1.1
201~500件		38	2.0
501~1000件		59	3.1
1001件以上		55	2.9
無回答		176	9.3
合計		1,890	100.0

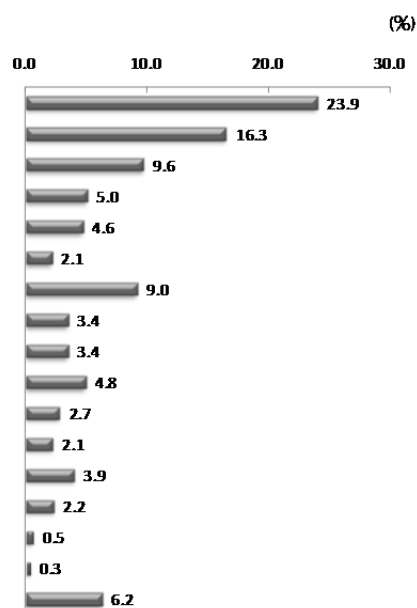
平均： 99.8件



介護保険請求数（中央値：2件）

C：介護保険請求数（月平均）		n	%
0件		451	23.9
1件		309	16.3
2件		181	9.6
3件		94	5.0
4件		87	4.6
5件		39	2.1
6～10件		171	9.0
11～15件		64	3.4
16～20件		64	3.4
21～30件		91	4.8
31～40件		51	2.7
41～50件		40	2.1
51～100件		74	3.9
101～200件		42	2.2
201～500件		10	0.5
501件以上		5	0.3
無回答		117	6.2
合計		1,890	100.0

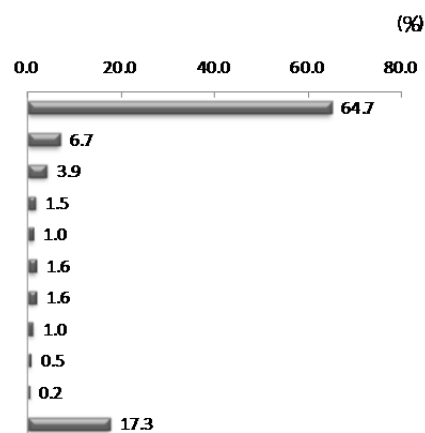
平均： 16.7件



諸事情により請求できなかった件数／月（中央値：0件）

D：諸事情により請求できなかった数（月平均）		n	%
0件		1,223	64.7
1件		127	6.7
2件		73	3.9
3件		29	1.5
4件		19	1.0
5件		30	1.6
6～10件		31	1.6
11～20件		18	1.0
21～50件		10	0.5
51件以上		3	0.2
無回答		327	17.3
合計		1,890	100.0

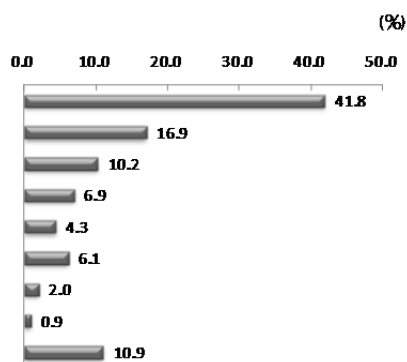
平均： 1.2件



Q6 訪問業務実施患者の担当医の数（中央値：2人）

A：担当医		n	%
1人	790	41.8	
2人	320	16.9	
3人	192	10.2	
4人	131	6.9	
5人	82	4.3	
6~10人	115	6.1	
11~20人	37	2.0	
21人以上	17	0.9	
無回答	206	10.9	
合計	1,890	100.0	

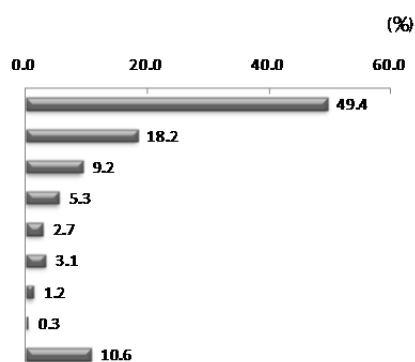
平均： 2.9人



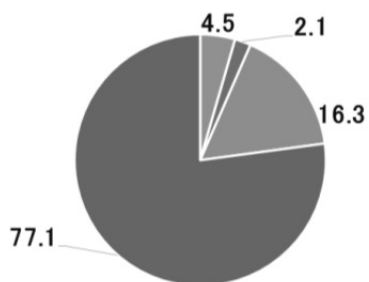
訪問業務実施患者の担当医療機関数（中央値：1件）

B：医療機関		n	%
1件	934	49.4	
2件	344	18.2	
3件	174	9.2	
4件	101	5.3	
5件	51	2.7	
6~10件	59	3.1	
11~20件	22	1.2	
21件以上	5	0.3	
無回答	200	10.6	
合計	1,890	100.0	

平均： 2.2件

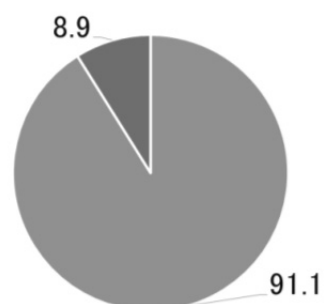


Q7無菌設備対応状況 (%)



- 無菌加算条件適合
- 無菌加算条件不適
- 共同利用可
- 共同利用不可

Q8介護施設併設の有無 (%)



- 無し
- 有り

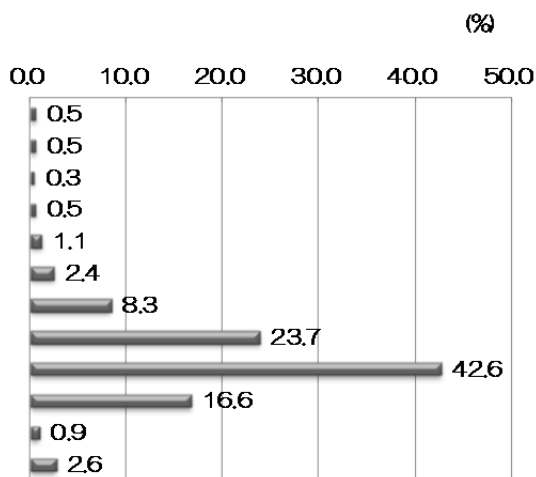
3) 患者背景

Q9 性別分布：男性2031人（37.3%）、女性3379人（62.0%）

Q10 年齢（中央値：82.0歳）

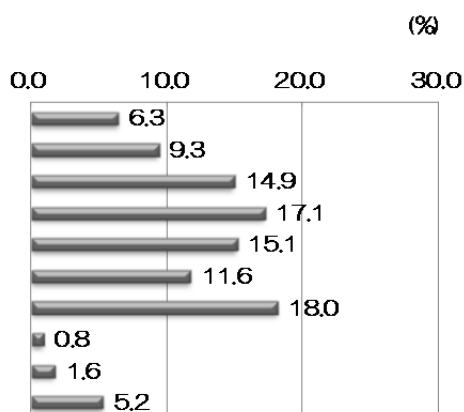
患者さんの年齢	n	%
0～9歳	26	0.5
10～19歳	26	0.5
20～29歳	19	0.3
30～39歳	26	0.5
40～49歳	59	1.1
50～59歳	130	2.4
60～69歳	453	8.3
70～79歳	1,293	23.7
80～89歳	2,320	42.6
90～99歳	904	16.6
100歳以上	49	0.9
無回答	142	2.6
合計	5,447	100.0

平均： 79.7歳



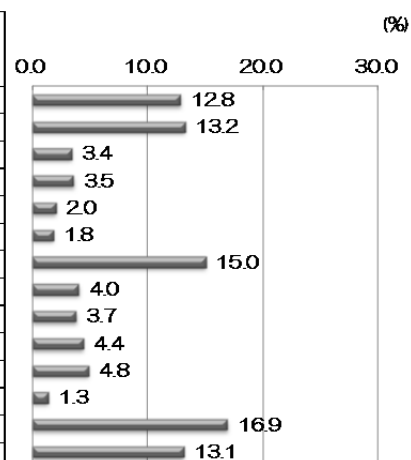
Q11 要介護度

要介護度	n	%
1 自立	343	6.3
2 要支援Ⅰ～Ⅱ	507	9.3
3 要介護Ⅰ	810	14.9
4 要介護Ⅱ	932	17.1
5 要介護Ⅲ	820	15.1
6 要介護Ⅳ	634	11.6
7 要介護Ⅴ	983	18.0
8 申請中	45	0.8
9 該当せず、不明	89	1.6
無回答	284	5.2
合計	5,447	100.0



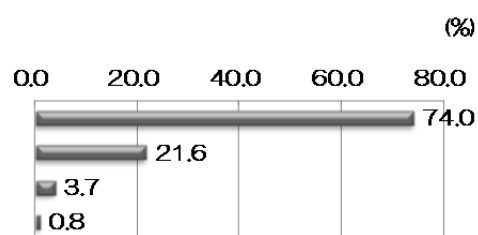
Q12 主疾患分布

主疾患	n	%
1 循環器疾患	698	12.8
2 脳梗塞後遺症	720	13.2
3 変形性関節炎	185	3.4
4 骨折・骨粗鬆症	192	3.5
5 関節リウマチ	109	2.0
6 筋萎縮性側索硬化症	96	1.8
7 認知症	817	15.0
8 パーキンソン病	217	4.0
9 その他神経疾患	204	3.7
10 慢性呼吸不全（喘息、COPD等を含む）	238	4.4
11 癌	264	4.8
12 腎不全	73	1.3
13 その他	921	16.9
無回答	713	13.1
合計	5,447	100.0



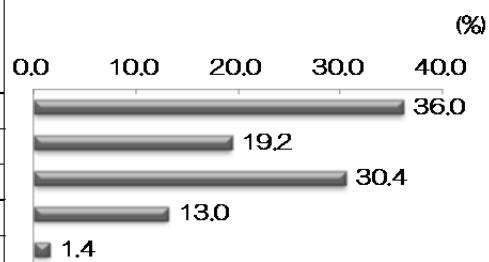
Q13 住居形態

住居形態	n	%
1 自宅	4,029	74.0
2 介護付き集合住宅	1,176	21.6
3 特別養護老人ホームなどの施設	200	3.7
無回答	42	0.8
合計	5,447	100.0



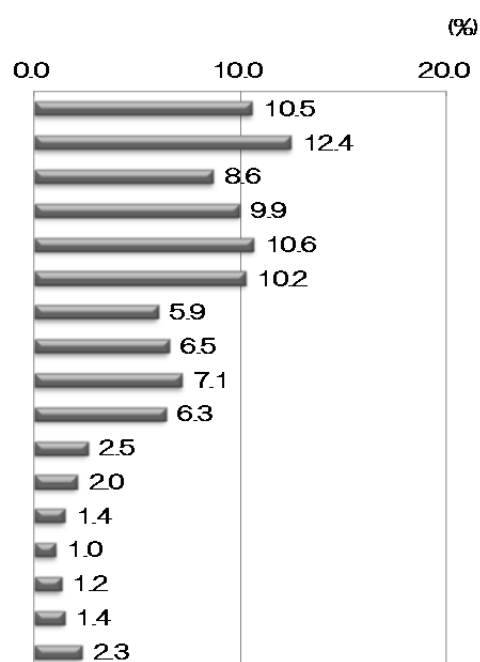
Q14 家族構成

家族構成	n	%
1 独居（1人暮らし）	1,963	36.0
2 配偶者と2人暮らし	1,045	19.2
3 家族と同居	1,654	30.4
4 家族以外の人と同居	708	13.0
無回答	77	1.4
合計	5,447	100.0



Q15 訪問期間（中央値：18か月）

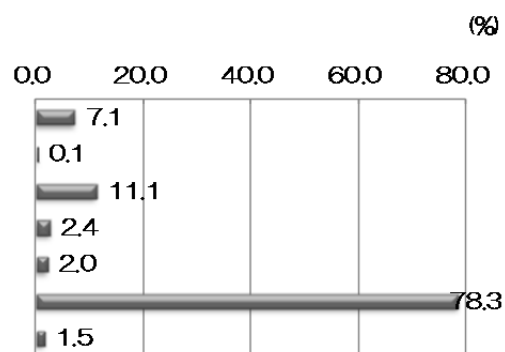
訪問期間	n	%
～3ヶ月	573	10.5
4～6ヶ月	675	12.4
7～9ヶ月	470	8.6
10～12ヶ月	539	9.9
13～18ヶ月	577	10.6
19～24ヶ月	555	10.2
25～30ヶ月	324	5.9
31～36ヶ月	353	6.5
37～48ヶ月	388	7.1
49～60ヶ月	344	6.3
61～72ヶ月	138	2.5
73～84ヶ月	111	2.0
85～96ヶ月	78	1.4
97～108ヶ月	54	1.0
109～120ヶ月	68	1.2
121ヶ月以上	77	1.4
無回答	123	2.3
合計	5,447	100.0



平均： 27.0ヶ月

Q16 高度医療の有無

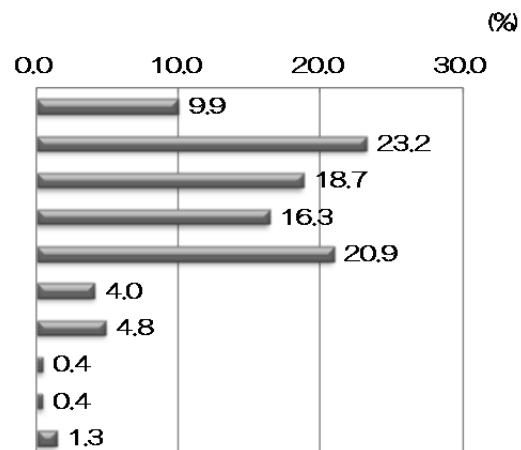
高度医療	n	%
1 在宅酸素	385	7.1
2 腹膜還流	8	0.1
3 経管栄養	606	11.1
4 在宅輸液療法	133	2.4
5 その他	109	2.0
0 高度医療は行っていない	4,266	78.3
無回答	79	1.5
合計	5,447	100.0



3) 訪問頻度と実働時間

Q17 実働時間 (中央値: 15分)

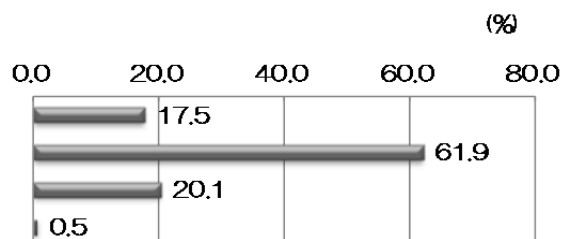
訪問指導宅での訪問1回あたりの平均実働時間	n	%
~5分	540	9.9
6~10分	1,263	23.2
11~15分	1,020	18.7
16~20分	889	16.3
21~30分	1,136	20.9
31~45分	220	4.0
46~60分	263	4.8
61~90分	22	0.4
91分以上	21	0.4
無回答	73	1.3
合計	5,447	100.0



平均: 20.6分

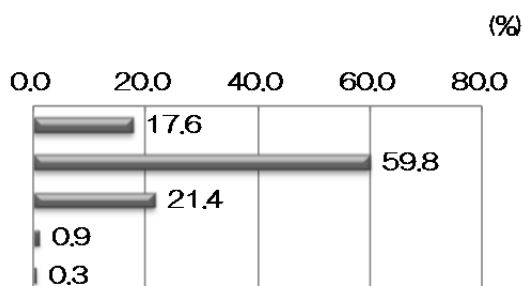
Q18 訪問頻度

訪問頻度	n	%
3週に1回以上	953	17.5
2月に2回程度	3,373	61.9
1月に1回以下	1,096	20.1
無回答	25	0.5
合計	5,447	100.0

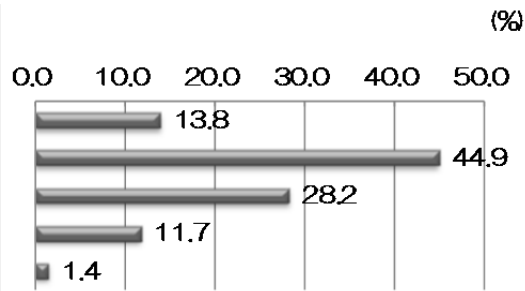


4) 各業務の実施頻度 (Q19)

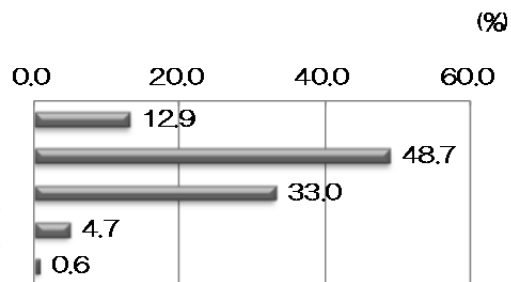
A. 服薬状況の確認	n	%
3週に1回以上	957	17.6
2月に2回程度	3,258	59.8
1月に1回以下	1,168	21.4
0行っていない	47	0.9
無回答	17	0.3
合計	5,447	100.0



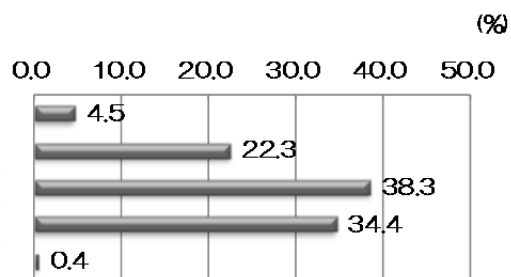
B. 残薬整理		
	n	%
3週に1回以上	754	13.8
2月に2回程度	2,445	44.9
1月に1回以下	1,534	28.2
0行っていない	637	11.7
無回答	77	1.4
合計	5,447	100.0



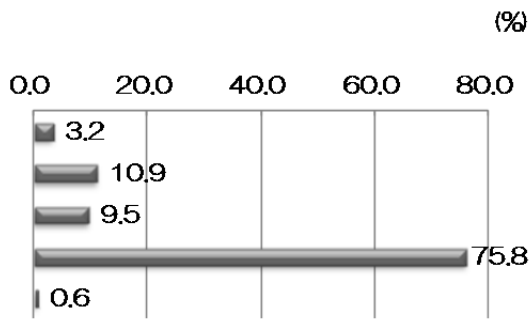
C. 患者、家族、その他介護者からの相談応需・説明		
	n	%
3週に1回以上	704	12.9
2月に2回程度	2,655	48.7
1月に1回以下	1,800	33.0
0行っていない	256	4.7
無回答	32	0.6
合計	5,447	100.0



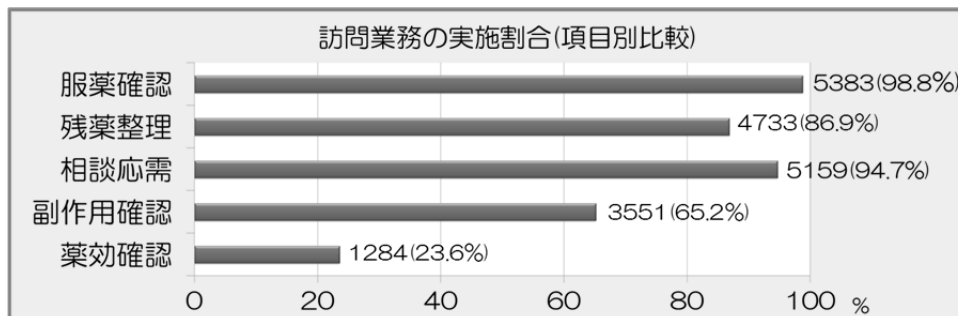
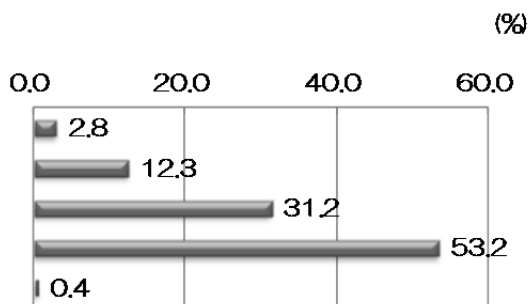
D. 検査データ（腎機能・肝機能など）やADL、バイタルなどを基にして副作用チェックを行い、副作用の可能性があれば医師と相談		
	n	%
3週に1回以上	246	4.5
2月に2回程度	1,217	22.3
1月に1回以下	2,088	38.3
0行っていない	1,876	34.4
無回答	20	0.4
合計	5,447	100.0



E. 血圧・血糖値・血液凝固能に関する自己測定器を活用し、薬効を確認		
	n	%
3週に1回以上	174	3.2
2月に2回程度	593	10.9
1月に1回以下	517	9.5
0行っていない	4,131	75.8
無回答	32	0.6
合計	5,447	100.0



F. 居室内や施設内の消毒や衛生管理のアドバイス・物品の供給		
	n	%
3週に1回以上	154	2.8
2月に2回程度	668	12.3
1月に1回以下	1,701	31.2
0行っていない	2,900	53.2
無回答	24	0.4
合計	5,447	100.0



主疾患	n	①	②	③	④	⑤	⑥
循環器疾患	698	99.1	86.4	95.6	66.3	25.8	39.7
脳梗塞後遺症	720	99.2	87.5	94.7	64.3	21.3	45.4
変形性関節炎	185	98.9	85.9	94.6	67.0	25.4	44.3
骨折・骨粗鬆症	192	96.9	85.4	95.8	59.4	23.4	47.4
関節リウマチ	109	99.1	84.4	96.3	65.1	16.5	36.7
筋萎縮性側索硬化症	96	100	86.5	99.0	60.4	11.5	54.2
認知症	817	99.5	92.0	96.8	70.4	25.9	52.1
パーキンソン病	217	98.2	86.2	96.3	67.7	25.3	54.4
その他神経疾患	204	99.5	80.4	89.2	60.8	21.1	42.6
慢性呼吸不全	238	98.3	83.2	92.9	64.3	18.1	42.9
癌	264	98.5	88.6	95.8	70.8	19.7	55.3
腎不全	73	100	90.4	97.3	68.5	30.1	45.2
その他	921	97.9	83.4	93.4	57.8	21.5	41.9

- ①服薬状況確認
- ②残薬管理
- ③相談応需、説明
- ④副作用チェック
- ⑤薬効確認
- ⑥衛生管理、物品供給

検査データを用いた詳細な副作用確認や、自己測定器を活用した薬効確認の実施割合は相対的に低いが、患者の主疾患（特に認

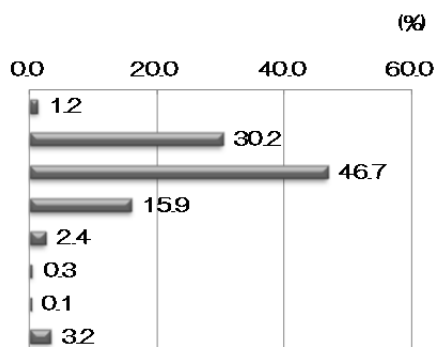
知症、腎不全）では平均値よりも実施割合が高かった。

5) 処方薬

Q20 内服薬（中央値：7）

A：内服薬の全品目数	n	%
0品目	64	1.2
1～5品目	1,644	30.2
6～10品目	2,544	46.7
11～15品目	865	15.9
16～20品目	133	2.4
21～25品目	19	0.3
26品目以上	3	0.1
無回答	175	3.2
合計	5,447	100.0

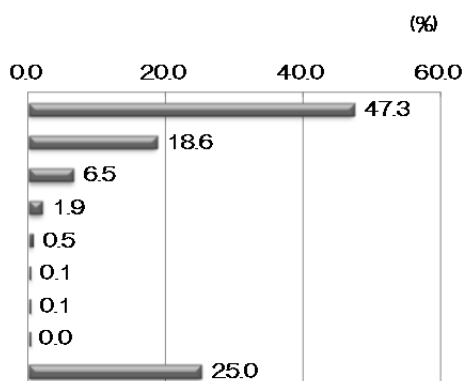
平均： 7.5品目



Q20 頓服薬（中央値：0）

B：頓服薬の全品目数	n	%
0品目	2,574	47.3
1品目	1,011	18.6
2品目	353	6.5
3品目	104	1.9
4品目	28	0.5
5品目	8	0.1
6品目	4	0.1
7品目	1	0.0
無回答	1,364	25.0
合計	5,447	100.0

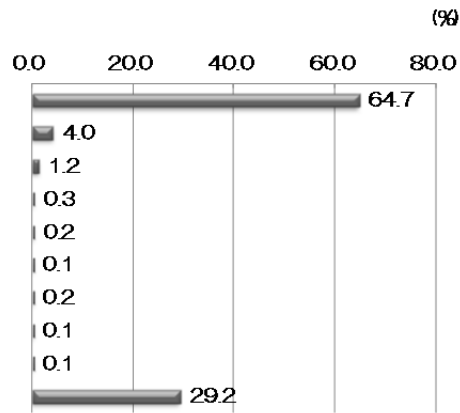
平均： 0.5品目



Q20 注射薬（中央値：0）

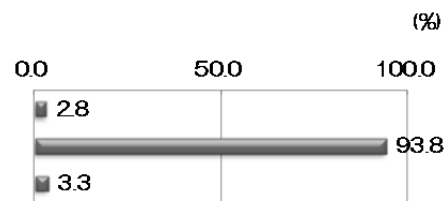
C：注射薬の全品目数	n	%
0品目	3,523	64.7
1品目	218	4.0
2品目	67	1.2
3品目	14	0.3
4品目	10	0.2
5品目	5	0.1
6品目	9	0.2
7品目	4	0.1
8品目	5	0.1
無回答	1,592	29.2
合計	5,447	100.0

平均： 0.2品目



Q20 麻薬処方の有無

D：問20A～Cの処方薬のうち、麻薬の有無	n	%
1 あり	155	2.8
0 なし	5,110	93.8
無回答	182	3.3
合計	5,447	100.0



【ADEの発見と解消の有無（Q21～24）順不同】

●在宅療養患者における有害事象の検証

Q22-24 ADEの発生状況

○患者割合は14.4%(784名)、発生総件数は915（ADE事例として929件）で内訳（上位10項目）

薬効小分類 (上位10項目)	一般名(例)	件数	副作用(上位2項目)
催眠鎮静剤、抗不安剤	アルプラゾラム プロチゾラム etc...	166	ふらつき：68 傾眠：22
精神神経用剤	エチゾラム クエチアピン etc...	91	ふらつき：30 傾眠：8
その他の中枢神経系用剤	プレガバリン ドネペジル etc...	90	ふらつき：23 湿疹：7
解熱鎮痛消炎剤	ロキソプロフェンNa ジクロフェナクNa etc..	50	腹部違和感：13 腹痛：9
糖尿病用剤	グリメピリド ピオグリタゾン etc..	33	低血糖：17 浮腫：4
血管拡張剤	ニフェジピン アムロジピン etc..	32	血圧低下：8 湿疹：7
下剤、浣腸剤	ピコスルファートNa センノシド etc..	31	下痢：23 腹痛：5
制酸剤	酸化マグネシウム	29	下痢：23 高Mg血症：1
その他の血液・体液用剤	アスピリン チクロピジン etc..	27	出血：20
抗パーキンソン剤	カルビドパ/レボドパ ベンセラジド/レボドパ etc..	25	幻覚：9 ショック：3

○Q24 ADEへの薬剤師の対処とその効果

・対処の内容 (N=915)

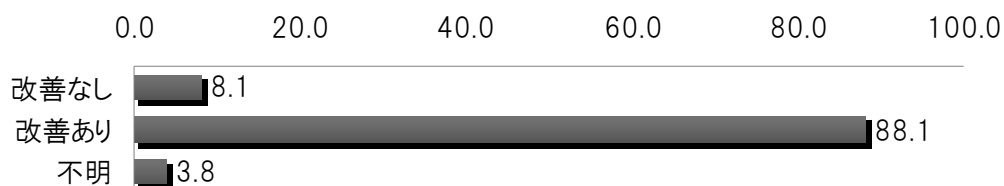


・改善の有無 (N=915)

●Beers Criteriaを活用したPIM (Potentially Inappropriate Medication) および有害事象の検証

Beers Criteriaに該当する薬を処方されていた患者は2053名 (処方割合：48.4%) であった。

Q21訪問患者におけるPIMの発生状況



○PIM総件数は2991件で内訳は以下のとおり。

使用薬剤	処方件数
H2ブロッカー	714
短期作用型ベンゾジアゼピン系薬	646
刺激性下剤の長期投与	362
長期作用型ベンゾジアゼピン系薬	218
ジゴキシン	159
ニフェジピン短期作用型製剤	155
抗コリン作用の強い抗ヒスタミン薬	128
チクロピジン	123
スルピリド	122
ベラパミル	104
超長期作用型ベンゾジアゼピン系薬	96
半減期の長い非COX 選択性 NSAIDs	94
シメチジン	50
アミオダロン	20
合計	2991

Q22 PIMに起因したADEの発生状況

○患者割合は8.0%(165名)、総件数は179で内訳は以下のとおり。

使用薬剤	発見件数	割合 (%)
短期作用型ベンゾジアゼピン系薬	64	9.9
刺激性下剤の長期投与	18	5.0
抗コリン作用の強い抗ヒスタミン薬	17	13.3
長期作用型ベンゾジアゼピン系薬	16	7.3
ジゴキシン	14	8.8
スルピリド	13	10.7
超長期作用型ベンゾジアゼピン系薬	11	11.5
H2ブロッカー	10	1.4
ベラパミル	5	4.8
チクロピジン	5	4.1
ニフェジピン短期作用型製剤	4	2.6
半減期の長い非COX 選択性 NSAIDs	3	3.2
アミオダロン	2	10.0
シメチジン	0	0.0
合計	179	

○ADEの詳細な内容記述が得られたのは158件

Q24 (一部抽出) PIM別有害事象の内容一覧

分類	一般名	件数	有害事象の内容及び発生件数
短期作用型ベンゾジアゼピン系薬	トリアゾラム	64	ふらつき:29件 眠気:4件 傾眠、健忘:各3件 せん妄、薬剤性パーキンソンニズム、依存性、幻覚、転倒、排尿障害:各2件
	エチゾラム		大量連用、意識障害、記憶障害、幻視、腎機能低下、舌のもつれ、多眠、吐き気、認知症の悪化、夢遊病、妄想、不穏、不明:各1件
	アルプラゾラム		
中期作用型ベンゾジアゼピン系薬	フルニトラゼパム	17	ふらつき:6件
	ロラゼパム		せん妄、意欲低下、過鎮静、興奮、眠気、傾眠、多眠、腰が抜けた、認知症様症状、転倒、立ちくらみ:各1件
長期作用型ベンゾジアゼピン系薬	ジアゼパム	15	ふらつき:7件 眠気:3件
	クアゼパム		ベッドから転落、意識障害、幻覚:各1件
	フルジアゼパム		不明:2件
スルピリド	スルピリド	11	ふらつき、振戦、唾液分泌過多:2件 難体外路症状、頭痛、不安感、便秘、歩行困難:各1件
超長期作用型ベンゾジアゼピン系薬	ロフラゼパム	10	傾眠:2件
	フルトラゼパム		ふらつき、過鎮静、恐怖感、幻覚、転倒、眠気、多眠、夜間換気量低下:各1件
ジゴキシン	ジゴキシン	9	食欲不振:4件 中毒:3件 悪心、幻覚:各1件
チクロピジン	チクロピジン塩酸塩	4	胃腸障害、禁忌、内出血、脳内出血:各1件
ハルピツール酸系薬	ガバベンチン	4	眠気:2件 ふらつき:1件
	クロルプロマジン酸塩		不明:1件
抗コリン作用の強い抗ヒスタミン薬	α-クロルフェニラミン酸塩	4	口渇:2件 ふらつき、不快感:各1件
H2ブロッカー	ファモチジン	3	傾眠、湿疹、発疹:各1件
アマンタジン	アマンタジン塩酸塩	3	ふらつき、せん妄、幻覚:各1件
ベラパミル	ベラパミル塩酸塩	3	徐脈:2件 不整脈コントロール不良:1件
MAO阻害薬	セレギリン	2	幻覚、情緒不安定:各1件
アミトリプチン	アミトリプチン塩酸塩	2	ふらつき、幻覚:各1件
オランザピン	オランザピン	2	低血糖、ADL低下:各1件
アミオダロン	アミオダロン塩酸塩	1	振戦:1件
刺激性下剤の長期投与	ピサコシル	1	腹痛:1件
中枢性筋弛緩薬	チザニジン塩酸塩	1	肝機能数値悪化:1件
ドキサゾン	ドキサゾンメシル酸塩	1	ふらつき:1件
四環系抗うつ薬	マプロチリン塩酸塩	1	ふらつき:1件